

平成21年度第2回大和市総合計画審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成22年2月23日(火) 午後1時30分～午後3時30分
 - 2 場 所 本庁舎5階 第5会議室
 - 3 出席者 委員8名(欠席1名)
 - 4 傍聴人 1名
 - 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
「めざす成果」の達成に向けた進行管理及び施策評価の概要について
 - (3) その他
 - 6 会議資料
 - 資料1 : 「めざす成果」の達成に向けた進行管理及び施策評価の概要について
 - 資料2 - 1 : 「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート
 - 資料2 - 2 : 「めざす成果」を構成する事務事業リスト
 - 資料3 : 施策評価シート
 - 資料4 : 第8次大和市総合計画の進行管理スケジュールについて
-

【議事】

「めざす成果」の達成に向けた進行管理及び施策評価の概要について

会 長：事務局より説明をお願いしたい。

事 務 局：資料1～資料4について説明。

委 員：ロジックモデルという表現を使っているが、馴染みの薄い言葉である。体系図や系統図といった、すぐイメージできる表現にした方がよいのではないかと。また、図の中にある「めざす成果」達成のための要因、市が実施する事柄という言葉も分かりにくい。めざす最終の成果、中間的な目標、具体的な方策という表現で理解できると思う。

会 長：ロジックモデルに代わる名称は、体系図よりは施策展開という言葉の方がよいと思う。ロジックモデルという言葉の中には、左から右へ組み上げていくという論理構成がイメージされていると思う。施策展開という表現であれば、目標の意味合いを持つ「めざす成果」を達成するために、このような事柄(施策)を行っていくのだなと読める。また、ロジックモデルの4段階目には事務事業が構成されてくるが、それを束ねたものも施策と捉えることができる。ロジックモデルの2段階目は、「要因」というよりは「要素」なのかもしれない。いずれにしても、より分かりやすい言葉にすること自体は必要である。このままの言葉でいくにしても説明を加える必要があると考える。

事 務 局：市民の方々にも分かりやすい言葉となるよう、再度調整を行い、整理をしていきたい。

委 員：「めざす成果」の達成に向けた進行管理は、毎年実施して、施策評価については、

平成24年度に実施するという考えでよいのか。

事務局：そのとおりである。

委員：「めざす成果」の達成に向けた進行管理シートでは、市が、来年度以降の施策展開の考え方までを記入し、総合計画審議会が、施策への提言を記入することで理解してよいのか。

事務局：委員のいわれるとおりである。「めざす成果」ごとに、総合計画審議会に意見をいただき、その内容を理事者に報告し、予算編成の際に微調整ができればと考えている。

委員：審議会の開催スケジュールでは、8月から10月の3回で46の「めざす成果」すべてを議論する予定となっている。進行管理シートは、いつの時点で完成するのか。また、総合計画審議会には、46を3つに分けて示していくのか、あるいはできた順に示していく考えなのか。

事務局：進行管理シートの作成は、7月までに46の「めざす成果」すべてを完成させる予定である。しかし、すべての「めざす成果」を毎年審議いただくかについては、検討が必要と感じている。市としては、「めざす成果」すべてを進行管理していきたい考えは持っているが、いくつか選択して審議を行う方法も考えられる。具体的な進め方についてご意見をいただきたい。

会長：46の「めざす成果」を毎年審議していくことは、時間的に厳しいと思う。十分に議論を行い、中身のある提言とするためには、年間15件程度が望ましい。46を3つに分けて、すぐにでも見直しが必要なものについては1年目に行い、3年間ですべてを確認していく方法が望ましいと考える。

委員：会長と同意見である。これに加え、審議会の委員が現在の人数でよいのかも検討する必要があると思う。

委員：すべての「めざす成果」を押し並べて行うことは無理があると思う。スケジュールでは、5月に指標の進捗状況が報告されることになっている。単に3つに分けるのではなく、指標の進捗状況を踏まえ、審議会の中で意見交換を行い、絞り込んでいく方法が良いのではないかと考える。

審議会の人数については、現段階で見直す必要はないと考える。

会長：これまでの総合計画審議会は、進行管理の役割は担っていなかった。今後、審議会が計画の進行管理も担うとなると、市民の目線はもちろん必要だが、専門的な視点がより一層重要になると感じている。将来的には、専門性を意識した委員構成も検討していく必要があると思う。

それから、毎年度予算にどう反映するかも大事ではあるが、計画の改定時に見直すべき事が提言されていなければ、計画そのものの変更が十分に行えないということになる。毎年の予算に反映する進行管理と計画の改定に活用する施策評価の位置づけを明確にし、審議会の運営を考えていく必要がある。総合計画は毎年大きく変わるものではない。計画見直しの議論がきちんとできるような施策評価なり進行管理になっていることが大事であると感じている。

事務局：審議会委員の数については、当面は現在の規模とし、1年間進めてみて問題があ

れば、ご意見を伺いながら、委員を増やしていきたい。なお、前回の会議で市民委員を増やすべきとの意見が多くあったため、次回の市民委員の募集では、1名増とし、3名を選出したいと考えている。

毎年実施する進行管理は、現状の進め方では目標を達成できない恐れのある施策について、早い時期に方向修正のご意見をいただき、目標の達成に近づけていくことを意図して設けたものである。基本的には会長のお考えと同じ方向と思う。

委員：施策評価の外部評価は、総合計画審議会（想定）となっているが、なにか理由があるのか。

事務局：市としては、施策評価についても、総合計画審議会に担っていただきたいと考えているが、今後、審議会の中で、施策評価は別組織での実施が望ましいという意見が多くあれば、別組織の設置を検討していく考えがあるという意味で、想定という表現をした。

委員：進行管理は総合計画審議会、施策評価は別の機関が担うということになると、審議会のミッションをどう考えればよいのか。次の基本計画策定に係る市長への提言の責任はだれになるのか。

事務局：現時点では、総合計画審議会に施策評価を行っていただきたいと考えている。より良い方法があれば、それを取り入れていきたいという意味であるとご理解いただきたい。

会長：計画の策定にかかわらなかった人に、別の発想で評価をしてもらう方が望ましいという考え方もあるかもしれない。いずれにしても、これからの取り組みの中で、考えていくことになるだろう。

委員：管理と評価は違うと考えている。総合計画審議会は、評価よりも進行管理を重視して、施策への提言を行う考えの方がよいのではないか。

委員：今回の事務局の提案は、総合計画審議会に行政評価をやってほしいということであろうと捉えている。計画策定に携わった我々では評価しにくいということであれば、審議会を開催すること自体が不適切ではないかと考える。総合計画は万全でなく、時代とともに変化しなければならぬ。行政内部による評価だけでなく、外部の目でチェックをして、改善のアクションにつなげていくことが求められている。どうやって評価していくかは難しい問題であり、どこまで出来るかは分からないが、行政評価を行うことが我々の役割ではないかと思う。

審議する「めざす成果」の選択の仕方は、指標の進捗状況を踏まえ、審議会の中で議論を行い、絞り込んでいく方法が良いと思う。

会長：優先度をつけるという意味では、今、言われた方法で進めていくことになると思うが、この会議で46の「めざす成果」すべてを議論の対象とするのか、重要なもののみを俎上にあげて、ほかは議論しないとするのかは明らかにしておく必要がある。

委員：今回は市長に対する提言がメインである。審議会委員の様々な意見をどのようにまとめていくのか、事務局にイメージはあるのか。

事務局：意見のまとめ方については、まだ決まっていない。

- 委員：事業仕分けのように、5月の報告の時に担当部局の職員も出席するという事なのか。
- 事務局：5月には、まだ、来年度の方針が整理できていないため、成果を計る指標の進捗状況しか報告することができない。職員が説明できるのは8月以降になると思われる。
- 委員：総合計画審議会でもいろいろな意見が出ると思うが、提言については、事務局でも整理しつつ、会長を中心にまとめていただくということを考えているのか。
- 事務局：できれば、そうしたいと考えている。
- 会長：審議する「めざす成果」は、5月の段階で数値を見て、選択することになるが、実際には、我々だけで判断することは難しい。基本的には、3年のうちにすべての「めざす成果」を見ることを前提にして、急いでみた方がよさそうなもの、見直しが必要と考えるものを、市側からある程度出してもらった方がやりやすいと思う。
- 委員：実務に全く携わっていない人間が、問題を見抜くことは非常に難しい。評価の実効性を高めるためには、すべての「めざす成果」を把握している総合政策課が、どれだけ問題提議できるかにかかっていると感じている。それを総合計画審議会が後押しするといった考え方をした方が実務的ではないかと思う。
- 事務局：今後は、総合政策課、財政課、行政改革推進課の三課でチームを構成し、この事業は必要ないのではないか、もっとこれを進めた方がよいのではないかという素案も整理していきたいと考えている。
- 委員：行政の担当者は、個々の事業について、無駄と書いていても無駄と言えない環境の中にいる。外部から無駄と言ってもらった方が、職員として助かるということもある。しかし、我々が、問題を見抜くことは難しいので、市から情報をいただき、それを審議会の中で意見交換する方が効果的と思う。
- 事務局：行政の場合、事業を廃止することが一番難しい。外部からそういった意見をいただくことで、すぐに廃止はできなくても、来年から廃止、縮小の検討に入ることができる。事務局としては、そういった効果も期待している。
- 会長：総合計画の進行管理を、行政マンではないメンバーでやる意味はまさにそこにある。我々をうまく活用してほしい。各部には、その辺の趣旨について理解してもらい、進行管理シート、施策評価シートに出来る限り記入してもらおうようにしてほしい。
- 事務局：全庁的な意思統一を図って進めたいと思う。
- 委員：企業にいた時に、「成果」は、努力、能力、考え方の3つの要素の相乗効果によって生み出されるものだといつも言われていた。今回の資料を拝見して、改めて成果をあげることの難しさを実感した。
- 会長：行政経営の部分に関しては、総合計画審議会の場にあがってこないのか。
- 事務局：今回のシートをそのまま使用することはできないかもしれないが、行政経営の部分も報告していく必要があると思っている。示し方について検討を行う。
- 会長：今回の取り組みは、全ての部が実施しなければいけないと思う。行政経営を47

番目の「めざす成果」として捉え、他の「めざす成果」と同様に総合計画審議会に示していく必要があると考える。

委員：ロジックモデルの意味合いを皆さんと共有しておきたい。総合計画の進行管理や行政評価を行う場合、他の自治体ではここまで考え方は示されていない。大和市は、ロジックモデルを用いて、こういう目標をたてて、こういう手法でやっていくという考え方を全てオープンにしている。これを見ることで、この部分の考え方が悪かったのではないかといった評価もできるだろう。そういう意味で、ロジックモデルは大事な資料であるということを理解しておく必要がある。

委員：進行管理シートの項目「構成事業に対する考え方」の吹き出しに、4月に実施する「各部の現状と課題」の課題欄と同様の内容となると書いてある。現状と課題というタイトルから考えると、課題欄には、現状に対しての問題点を書く印象がある。この欄で求めている内容と一致しないように思えるがどうか。

事務局：毎年4月、理事者に各部の現状と課題を報告しているが、総合計画の指標などを踏まえての報告にはなっていない。今後、各部には、進行管理シートを使って、「めざす成果」を達成するための論理を見て、指標の推移を確認しながら、報告してもらわなければならないと考えている。これまでの取り組みを単に置き換えて実施するものではない。吹き出しの表現については、適切なものに修正していきたい。

委員：施策評価シートの項目「達成度評価」の選択肢にパーセンテージが示されているが、その数字はどのように算出するのか。

事務局：評価の結果をいくつかの選択肢で表そうとするときに、その基準はどこにあるのかというのは、どの自治体の行政評価を見ても答えがないのが実際である。成果は、数値だけで計ることはできないので、定性的なものも含めて、最終的に自ら判断して評価を行うことになると思う。明確な基準はないので、むしろ、この表現でいいか、審議会からご意見をいただければ、修正していくことも可能である。なお、市民に公表する際、パーセンテージまでを示す必要はないと考えるが、なんらかの選択肢は表示していきたいと考えている。

会長：指標だけにこだわってしまうと読み間違いを起こす可能性がある。また、その指標が本当に的確なのかという議論を生み出すことも考えられる。この欄のパーセンテージはあくまで目安と考える方がよいのではないか。

施策評価シートの要因分析は、達成できなかった要因のみを記入することになっているが、達成できた要因もあるのではないか。なにを改善して達成することができたのかも今後は理解していく必要がある。できた場合にも記入してもらう形に改めた方がよいと思う。

【その他】

会長：次回は5月18日（火）の午後1時30分に開催する。

事務局：有識者委員の皆様には、再任の意向を年度内に確認させていただきたいと考えているので、よろしく願いたい。